

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：33906

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22720222

研究課題名（和文） 解放後韓国の留学生送り出しにおける外国語教育の役割に関する研究

研究課題名（英文） Study of the Role of Foreign Language Education in International Student Mobility after Korea's Liberation

研究代表者

樋口 謙一郎 (HIGUCHI, Ken'ichiro)

梶山女学園大学・文化情報学部・准教授

研究者番号：40386561

研究成果の概要（和文）：

本研究は、解放後韓国の留学生送り出しにおける外国語教育の役割を分析するものである。その成果としては、次の点が挙げられる。第1に、解放後韓国の外国語教育の通史を構築に努めた。従来から、韓国の英語教育政策、初等学校（小学校）英語教育の現状などについて資料収集、研究発表を行ってきたので、本研究では、それらの研究を出発点として日本語・中国語・欧州諸語など外国語教育政策の通史的・制度的整理を行った。第2に、韓国で行政機関、高校・大学、民間の語学学校などの視察・調査を行い、外国語教育政策を、特に為政者の言語観と教育部門において策定される具体的な政策の関連についての知見を深めることができた。第3に、米国立公文書館において、米軍政期（1945-1948年）南朝鮮における外国語教育政策関連の資料を収集した。第4に、韓国の外国語教育との比較として、日本・香港・シンガポールの外国語教育に関する検討を実施した。これらに関連する成果の一部は、日本「アジア英語」学会、日本言語政策学会などの大会や研究会で報告され、さらに研究代表者の著書に収録された。本研究の最終的な成果は、今後、著書・学会誌において公表する計画である。

研究成果の概要（英文）：

The focus of this research is on analyzing the role of foreign language education in sending out Korean students abroad. The main results of this research project can be summarized as follows. Firstly, fundamental data and material regarding the history and systems of foreign language education in South Korea, including Japanese, Chinese, and various European languages, in relation to students choosing to study abroad were collected and classified. The principal investigator's previous study focused on English language education policies after Korea's liberation and the current English language education system in South Korea, and those research results were used as a starting point for this study. Secondly, research visits to administrative institutions, high schools, universities, and the English Village in South Korea were carried out, and data on the relationship between political leaders' views on language and specific language policies that the education division has implemented were collected. Thirdly, data and material concerning the language education policy during the U.S. Occupation of South Korea (1945-1948) were gathered from the United States National Archives and Records Administration. Fourthly, comparisons were made between South Korea's in-country foreign language education policies and those in Japan, Hong Kong, and Singapore. Some of the results of this investigation have been presented at research seminars and conferences, including the Japanese Association for Asian Englishes and the Japanese Association for Language Policy, and has been used in some literary works. The final results of this study will be published in a book and/or academic journals.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：外国語教育論・教育史

1. 研究開始当初の背景

日本統治からの解放後（1945年以降）の韓国における海外留学は活発に行われてきており、これまでの主な送り出し相手国としては、日本、米国、ドイツ、フランス、さらに近年ではカナダやオーストラリア、さらには中国などが挙げられる。これは歴史的に見ると、かつての統治国であり地理的にも近隣にあって文化的親和性も相対的に高い日本、日本統治の後の米軍政期や冷戦時代を通じて韓国に大きな影響をもたらした米国、その米国と同様に高い学術的・技術的水準を誇るヨーロッパ諸国を中心にエリートが海外留学をしていた時代を経て、留学という営為が大衆化・早期化して語学留学が盛んになり、さらに中国の政治・ビジネス面におけるプレゼンスの増大を受けた中国留学の活発化という経緯が見て取れる。韓国人の海外留学は、大局的には留学人口の拡大、大衆化、早期化へとという歩みを一貫して維持している。

留学は、学術や技術習得のために海外に渡航・滞在するという個人的な営為であるが、より巨視的に見ると、国家や社会に有用な人材の育成という意味を持つ。このことから、留学に関する主たる関心は、特定個人のライフヒストリーにおける海外体験という観点、もしくは社会学や教育学などの領域において社会階層移動の問題や特定国家・地域の人材育成戦略に注がれてきた。

このことは、韓国人の留学という現象への学術的アプローチにおいても基本的に同様である。

他方、言うまでもなく、留学先の選択や留学の成功、より良い留学機会の獲得という観点からは、自国内における留学前の外国語教育が重要な一要素となるが、海外留学との関係で外国語教育・学習の役割や機能に注目されることは意外なほど少ない。特に近年、韓国では初等英語教育の教科化や公営の「英語村」設立などに見て取れるように、国・自治体の言語政策に占める英語の地位が大きく

なっており、それらに関する研究は英語教育学や社会言語学の分野で量産されているものの、同時に活況を呈している留学ブームと、留学という営為を裏付けるものとしての外国語の学習・教育のありかたに対する研究は多くない。しかしながら、英語を母語としない国（EFL国）でありながら英語教育を政策的に強く推進している韓国について、海外留学の隆盛の歴史的展開と外国語教育・学習の連関を探求することは、韓国社会の語学教育（自国語教育を含む）や言語観を考察する糸口になるだけでなく、言語に関する一般的な状況が相対的に見て近似的な日本における外国語教育のありかたについても示唆を見出しうる。

そこで本研究では、朝鮮半島が日本統治から解放された1945年から今日までの韓国の留学生送り出し動向と、それに対する外国語教育の役割・機能に焦点を当てる。

2. 研究の目的

本研究における「留学生送り出し」とは、公的な派遣留学だけでなく、留学の結果として見込まれる社会階層移動（留学の結果としての職業選択幅の拡大、社会的地位の上昇などを含む）の可能性が社会の留学志向をさらに拡大するという社会的プッシュ要因を含意している。本研究では、①外国語教育政策の通史構築（法律・制度の理念と成立経緯の整理）、②留学事業および留学生の量的・質的変遷の分析、③留学生送り出し政策の変遷、留学者の社会階層移動と外国語教育の役割・諸条件の分析——を中心に研究を進め、韓国における留学志向の歴史的・社会構造的要因、外国語教育の特徴および問題点・課題と、それらの連関を明らかにしていく。

なお、本研究の特色として、次の2点を特記しておきたい。第1に、本研究では、日本統治からの解放直後の南朝鮮地域における米軍政期（1945-1948年）から1950年代に

かけての留学生送り出し関連施策の考察を組み込む。米軍政期の南朝鮮地域においては、朝鮮語だけでなく日本語（旧統治者の言語）、英語（新たな統治者の言語）が飛び交い、軍政庁の統治の下で現代韓国の言語政策の礎が築かれた。また、当時、米国が韓国に対して実施した大規模な教育援助は、多くの米国留学者を輩出しただけでなく、韓国人の米国留学志向の形成に関して大きな意味を持つものである。米軍政期に関しては米国の資料も参照する必要があるため、本研究2年目においては、米国立公文書館（NARA）でも資料収集を行う。

第2に、できるだけ新しい動向の考察を盛り込むため、韓国人の中国（香港・台湾を含む）留学に関する調査を盛り込む。1992年の中韓国交正常化以降、韓国人の中国留学は質量ともに拡大しており、その実態と外国語教育へのインパクトを解明すべく、香港を研究者の協力を得て調査を行う。

3. 研究の方法

本研究は、外国語教育を中心としながらも、それにとどまらず、言語政策、教育政策、法制度、政策過程、国際関係などを踏まえた学際的研究となる。資料は、日本・韓国のみならず、今日の韓国人の主な留学先として米国および中国（台湾・香港を含む）においても収集する。この際、在米・在韓・在中の知人研究者との情報交換を十分に行って密度の濃い研究を行うよう努める。3年間の研究期間中、次の3点を基軸として研究を進める。

(1) 外国語教育政策の通史的研究：本研究の基礎となる作業として、まず解放後韓国の外国語教育の通史を構築する。外国語教育のなかの英語教育については、応募者がこれまで資料収集、研究発表を行ってきたので、本研究においては、それ以外の日本語・中国語・欧州諸語に関する外国語教育史および教育政策を精査する。韓国の外国語教育政策について、近年の状況や、近い将来の展望を踏まえた先行研究は少ないため、本研究では、可能な限り最新の状況を踏まえた通史の構築を図る。

(2) 留学事業および留学生の質的・量的変遷の研究：韓国の留学事業について、いかなる性格の事業がいかなる規模で行われてきたのかという点につき、歴史的経緯を整理する。この際、国家レベルの人材育成政策において留学の効用がいかに考えられてきたのか、また相手国の受け入れ政策との関係も踏まえて総合的に考察する。米国立公文書館（NARA）所蔵資料の調査を手始めとして、米国の留学支援事業の全体像および性格を

極力明らかにしたい。海外留学生の質・量の変遷や海外留学生の社会階層移動について文献およびヒアリング、インタビューに基づいて調査を行う。

(3) 留学生送り出しと外国語教育の役割および諸条件の分析：上記(1)(2)の研究をまとめ、韓国の留学生送り出しに外国語教育がいかなる連関を持つのか、その役割および機能を分析する。留学生に対する社会的期待（いかなる知識・技術を持つ人材が社会に求められるか）に対し、外国語の学習・教育がどのようにかかわってきたのかという外国語教育と社会環境のダイナミックな関係を探り、韓国の外国語教育の特徴および課題を分析する。

4. 研究成果

2010年度は、本研究の基礎となる作業として、まず解放後韓国の外国語教育の通史を構築に努めた。これまで、韓国の英語教育政策、初等学校（小学校）英語教育の現状などについて、資料収集、研究発表を行ってきたので、本年度においては、それらの研究を出発点として日本語・中国語・欧州諸語など外国語教育政策の通史的・制度的整理を行った。具体的には、国立国会図書館、日本・韓国の各大学図書館などにおいて資料調査を行った。そこで収集した資料を分析・検討し、外国語教育政策を、特に為政者の言語観と教育部門において策定される具体的な政策の関連についての知見を深めることができた。また、韓国における早期留学、各国の対外言語政策の韓国への展開などに関する資料も収集し、韓国の留学生送り出しにおける複合的要因が明らかになってきた。これらの点に関して、専門家との研究討論のなかで、今後の研究の課題について認識を深めることもできた。資料調査・論稿執筆とあわせ、留学事業および留学生の量的・質的変遷、さらに韓国の外国語教育の制度・慣行の分析を深化させることにも重点を置いた。また、香港の研究者の協力を得て、近年増加している韓国人の中国留学の実態と外国語教育へのインパクトについて若干の考察を行った。また、次年度に実施する予定の米国立公文書館（NARA）における米軍政期資料の収集の準備も行った。

2011年度は、留学事業および留学生の量的・質的変遷に関する歴史的研究を中心に行った。前年度の成果を基礎としつつ、本研究に一貫する問題意識を再度整理するとともに、個別テーマおよび関連テーマの論稿を蓄積して、最終的な研究成果をまとめるべく準備を行った。米国立公文書館（NARA）において、米軍政期南朝鮮および大韓民国独立直後の時期の教育施策および米国による対韓援

助に関する米国側資料の収集を行い、これは現在分析の途中にある。韓国での補足調査も行い、ソウルおよび釜山において資料収集や専門家との協議を繰り返したほか、学術関係者および政策関係者の協力を得て、韓国の外国語教育政策および留学関連施策に関する資料収集・インタビュー調査を行うことにより、韓国の留学生送り出しにおける複合的要因をさらに精緻に検討するとともに、先行研究から得られる情報の更新や知見の検証も行うことができた。それらの成果の一部は、書籍などへの寄稿、関連学会や研究会などでの報告により公表したほか、メディアへの寄稿やインタビュー取材への対応を通じて、一般にも紹介するよう努めた。

2012年度は、前年度に引き続き、韓国での視察・ヒアリングを行ったほか、米国立公文書館(NARA)における資料収集と整理を行った。また、留学生送り出しの具体的事例を検討すべく、フィリピン、英国においても視察・ヒアリングを行った。一連の調査研究成果は随時公表しているが、本研究の最終的な成果は、今後、学術論文として著書・学会誌において公表する計画である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① 樋口謙一郎、韓国の英語教育政策の現状と展望(上): 「教育課程」の改訂とその背景、英語教育、査読無、2010年7月号、66-68

② Higuchi Ken'ichiro, Kwong Yan Kit, Language Use and Language Policy in Modern Hong Kong: Development of Multilingualism and Its Influences, 椋山女学園大学研究論集、査読無、第43号、2012年、107-119

③ 江仁傑、樋口謙一郎、ニューカマーのコミュニティにおける言語使用とアイデンティティ: 日本、香港・マカオ、韓国の事例から、第9回国際日本語教育・日本研究シンポジウム予稿集、査読有、香港日本語教育研究会、2012、(電子ファイルにつき頁表記なし)

④ Ken'ichiro Higuchi, William M. Petruschak, An Overview of Overseas English Study in Asian Countries and Approaches to Related Research, 椋山女学園大学文化情報学部紀要、査読無、第11巻、2013、71-81

[学会発表] (計6件)

① Higuchi Ken'ichiro and Kwong Yan Kit, Language Education and Language Use of Koreans Living in Hong Kong, The Joint Conference of Association for Asian Studies (AAS) and International Convention of Asia Scholars (ICAS), March 31, 2011, at the Hawai'i Convention Center

② 樋口謙一郎、韓国の言語政策と英語教育、中京大学大学院国際英語学研究所・大学英语教育学会(JACET)中部支部主催2011年度学術講演会、2011年10月1日(於・中京大学)

③ 樋口謙一郎、他、シンポジウム・韓国英語教育の多角的考察と研究手法、日本「アジア英語」学会第29回全国大会、2011年12月10日(於 椋山女学園大学)

④ 樋口謙一郎、韓国の英語教育改革、文部科学省・第20回海外教育事情調査研究会、2012年7月20日(於・文部科学省)

⑤ 樋口謙一郎、他、シンポジウム・大学における外国語教育の現状と課題—「学生」と「地域」のニーズの視点から、2012年度日本言語政策学会中部地区研究会、2012年10月28日(於 名城大学 名駅サテライト)

⑥ 江仁傑、樋口謙一郎、ニューカマーのコミュニティにおける言語使用とアイデンティティ: 日本、香港・マカオ、韓国の事例から、2012年11月24日、第9回国際日本語教育・日本研究シンポジウム(於 香港城市大学)

[図書] (計2件)

① Higuchi Ken'ichiro, Kwong Yan Kit, Multilingual Hong Kong: Language and Experience, V2 Solution, 2012, 1-108.

② 樋口謙一郎、他、韓国の英語教育と EBS の果たす役割、ブイツーソリューション、2012年、8-19

[産業財産権]

○出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

樋口 謙一郎 (HIGUCHI, Ken' ichiro)
椋山女学園大学・文化情報学部・准教授
研究者番号：40386561

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：